

留寿都高等学校

【 北海道 】

日本農業新聞

発行所 日本農業新聞
〒110-8722 東京都台東区秋葉原2番3号

©日本農業新聞2003

2003年(平成15年)

6 27

金曜日

介護福祉士 めざし研修

留寿都高生



介護実習をする遠藤さん(右)
指導する本多介護福祉士

級と三級の認定校になり、生徒は進級することになり、二級と資格を取ることができる。これまで二十九人の卒業生が国家試験に合格し、介護福祉士として活躍している。

農業福祉コース三年生の遠藤理沙子さんは、同校の卒業生で介護福祉士の試験に合格し、同村特別養護老人ホームに勤める本多由佳さんから、高齢者介護の指導を受けている。

遠藤さんは「お年寄りとのコミュニケーションを中心に介護技術を習い、介護福祉士の資格取得に備える」と意欲적이다。本多さんは「遠藤さんが介護福祉士になれるよう支援したい」と熱心に指導している。

【留寿都】高齢化の進む農家を支援しよう―と、後志管内の留寿都高校の農業福祉コース三年生十九人は二十三日から、札幌市内や胆振、後志管内の福祉施設で泊まりの体験実習に取り組んでいる。国際農業コース三年生十一人も、農家でホームステイしながら農作業する実習をスタート。農業福祉コースは七月四日まで、国際農業コースは今月二十七日まで実習する。

同校は十年前、全国でも珍しい「農業福祉科」を設置。厚生労働省が認定するホームヘルパー二

留寿都高を今春卒 石川さん 石沢さん 木村さん

3人介護福祉士に合格

北海道新聞

2004年
4月6日 火

発行所
北海道新聞社

【留寿都】留寿都高農業福祉コースをこの春卒業した3人全員がこのほど、難関の介護福祉士の国家試験に合格した。3人は4月から、それぞれ福祉施設で社会人1年生として働いており、やりがいのある仕事に胸を膨らませている。
(十亀敬介)

地道な学習実る



石沢美華さん



木村尚美さん

特養などで勤務 新たに責任感

合格したのは石川果奈 介護福祉士の受験資格を記と実技の二本立てで、さん(カ)胆振管内大滝 得られる。社会福祉基礎 合格率は50%を切る狭き村、石沢美華さん(カ)や老人介護といった専門 門。三人は同校の宮田俊 同虹田町、木村尚美 科目の履修のほか、四年 江福祉部長らの指導で、

生の四カ月間は福祉施設 での実習を行う。 介護福祉士の試験は筆

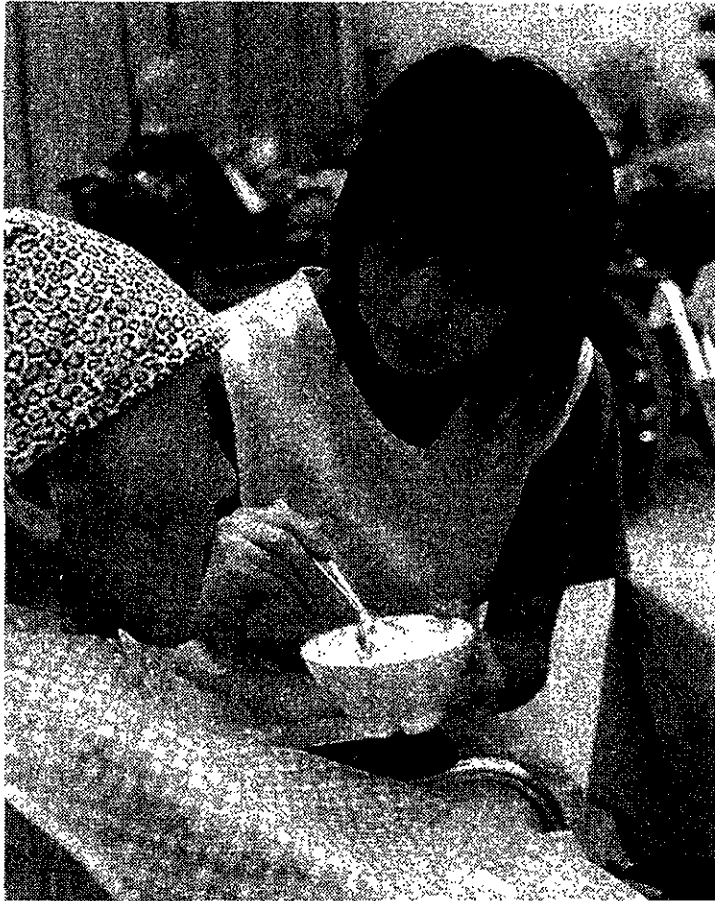
「要介護者をベッドから トイレに移す」といった 過去の実技試験問題を復 習し、地道に勉強を重ね、 見事に合格した。

すでに、石川さんは真

狩村の特別養護老人ホム 真狩羊蹄園に勤務。ま た、木村さんは古平町、 石沢さんは胆振管内豊浦 町の福祉施設に就職して いる。

石川さんは正式採用に 先立って、三月下旬から 同ホムムで先輩の指導を 受け研修しており、三十 一日に吉報を受けた。四 月二日は初めての夜勤 で、お年寄りに寝間着を 着せたり、トイレの介助 をしたりと、仕事をこな した。

石川さんは「一四七号 と小柄なので、体の大き な利用者が負担を感じな いよう気を付けていま す」と、責任ある仕事に やりがいを感じている。



真狩羊蹄園でお年寄りの夕食を介助する石川果奈さん

楊志館高等学校

【 大分県 】

全国高等学校長協会家庭部会
 福祉科高等学校長会
 事務局 担当者 殿

楊志館高等学校
 佐々木 修

拝啓

いつもお世話になります。
 新聞記事の写しを送付させて頂きました。

点訳した絵本を贈る

楊志館高生が県立盲学校へ



「皆さんで読んでください」

楊志館高校(原尻正信 校長)に贈った。
 校長)の福祉科三年生は 福祉科は授業に点訳を
 五日、点訳した絵本三冊 取り入れており、卒業
 を県立盲学校(草野選夫 制作の一つとして絵本を
 の小学部、中学部、高等部

作った。教員や家族ら
 と一緒に読めるよう、透
 明のシールに点字を打っ
 て絵本に張り付けてい
 る。
 生徒四人と原尻校長ら
 が盲学校を訪れ「皆さん
 で読んでください」と渡
 した。草野校長が「生徒
 にとって点字は貴重な情
 報源。点字に興味を持ち、
 絵本を作ってもらい、感
 謝しています」、盲学校

大分合同新聞
 (H17.12.6日)

大野東高等学校

【 福井県 】

タイで介護体験 大野東高女生徒ら 偏見ない社会を



タイのエイズホスピスで患者にマッサージをする大野東高の生徒＝8月7日

「家族にも見捨てられ
た人たち。でも、触れ合
えは同じ一人の人間。偏
見なんて……」患者が会
話集から「感動した」と
いう文章を探して指さし
たとき涙があふれた」

「家族にも見捨てられ
た人たち。でも、触れ合
えは同じ一人の人間。偏
見なんて……」患者が会
話集から「感動した」と
いう文章を探して指さし
たとき涙があふれた」

定校で実践的なエイズ教
育に取り組んできた。タ
イには四年前から、古着
や募金を送ってきたほ
か、教諭と一緒に現地を
訪ねる個人ボランティア
は三年目になる。

い 華 鏡

「農村に普通に患者が
いるタイは日本の十年後
かもしれない。現状を伝
えたいし知ってほしい。
感染者を偏見なく受け入
れる社会にもしたい」と
声をそろえる。

朝日あいかさんら四人
は「農村に普通に患者が
いるタイは日本の十年後
かもしれない。現状を伝
えたいし知ってほしい。
感染者を偏見なく受け入
れる社会にもしたい」と
声をそろえる。

同校は昨年度まで三年
間、文部科学省の研究指
導だ。二十五、二十六日
の学校祭でその成果を生
かした寸劇も、展示、模擬店
で啓発と募金活動を行う。

朝日さんら保健委員
は七月、厚生労働省が進め
る「エイズ・ピア・エデュ
ケーター」の養成講座を受
けた。同世代に感染原因な
ど正しい知識を伝える先
導役だ。二十五、二十六日
の学校祭でその成果を生
かした寸劇も、展示、模擬店
で啓発と募金活動を行う。

こんにちは

たいと思っていました。

——見学した施設で印象に残っているのは

(山本) バンコクにある養子縁組センターです。そこは捨て子を預かる施設なのですが、捨て子が年間500件ほどあると聞いて驚きました。その原因が貧困、親が精神病者、HIV感染などと聞いてショックを受けました。

(高嶋) 5歳までの子供たちが入所するチェンマイの養護施設です。家族を養うためにやむを得ず売春婦をした母親からHIV感染した子供たちが多いと聞いて、悲惨だと感じました。

——リジョイスの活動に同行して感じたことは

(高嶋) リジョイスはタイのエイズ患者への支援活動として、訪問看護で感染症を予防するための薬やミルクを配布しています。同行させてもらった看護師はみんなやさしく、患者に慕われているなあと感じました。

——学校祭で活動を発表したそうですね

(山本) 現地で感じたことをみんなに伝えて、学校祭の売り上げを寄付させてほしいとお願いしました。理解してくれたみたいで良かったです。

——将来の夢を聞かせてください

(2人) 学校に入学した時から看護師になりたいと思っていましたが、今回の経験を通じてさらにその気持ちが強くなりました。患者さんにとって必要とされる看護師になりたいです。

タイで福祉施設の見学やエイズ患者支援活動に同行 「看護師になりたい」「思ったら強く」

高嶋 玲香さん (写真左)

山本 三鈴さん (写真右)

大野東高校3年
(福祉科)

高嶋さんと山本さんの2人は夏休みを利用してタイへ行き、社会福祉施設の見学や、リジョイスというエイズ患者支援組織の活動に同行しました。大野東高校では、リジョイスへの活動支援として、7年前から現金や古着などを送っています。

今回の活動を通して感じたことや思いなどを聞きました。

——参加しようと思ったきっかけは

(高嶋) 中学の時、実際にタイへ行った先輩の話聞く機会があって、自分もその活動に参加し

平成17年12月号 大野市広報より

塩谷高等学校

【 栃木県 】

○

○

障害乗り越え熱戦展開

県スポーツ大会に4400人



選手代表で力強く宣誓する渡辺さん＝8日午前8時50分、県総合運動公園陸上競技場

第一回県障害者スポーツ大会が八日、宇都宮市川田四丁目の県総合運動公園などで開かれ、市内から約百六十団体とボランティアなど関係者約

四千四百人が参加した。大会は県民の障害に対する理解と障害者の社会参加を促進することなどを目的に、昨年度まで別々に開かれていた「県身体障害者スポーツ大会」と「県ゆうあいピック大会」を統合した初めての催し。

開会式では主催者を代表して福田富一知事が手話を変えながら「障害を乗り越え生き生きとスポーツをしている姿に敬意を払います。大会が心に残るよう、ベストを尽くしてください」と祝辞を述べた。続いて選手を

味わ御茶室の料理
県産

代表し、今市市平ヶ崎の渡辺武子さん(左)が「大会を機に栃木県の障害者スポーツが盛んになり、より多くの方がスポーツを楽しんでほしい」と宣誓した。式典後、選手は各競技会場に分かれ、陸上競技や卓球、水泳、車いすバスケットボールなどの競技に熱戦を展開した。

2005.11.



5/25 (水)

JAデイ施設で実習

県立塩谷 高校生 毎週訪れ明るく介助



デイ利用者と一緒にゲームをする実習生

【このあす】県立塩谷
高校福祉部の学生が、
1学期の間、毎週金曜日
に社会福祉会館に訪れて
いる。

社会福祉に関する知識

と技術を、実家の業務の
場で実践することから、社
会福祉に携わる必要を能
力と態度を育ててまわっ
て毎年行っている。

JA塩谷の社会福
祉施設にも通って、毎週
訪れる。塩谷町の中心サ
ービスセンターをすくま
しめるのは朝の送迎、入
浴補助や体操、ゲームな
どが、矢張り「デイサー
ビスセンター」ならでは
は利用者の目を見て訪れ
る。職員の手を借りては
ない。また、職員の手を
借りては「利用者」の目
を見て訪れる。

JA塩谷の社会福祉(17)
は「利用者」の手を借り
ない。また、職員の手を
借りては「利用者」の目
を見て訪れる。

「利用者」の手を借り
ない。また、職員の手を
借りては「利用者」の目
を見て訪れる。